

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075400285		
法人名	社会福祉法人 直鞍会		
事業所名	グループホーム やすらぎ園		
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町大字木月1826番地1 (電話) 0949-42-6883		
自己評価作成日	令和 2 年 5 月 30 日	評価結果確定日	令和 2 年 8 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者と職員の信頼関係を深め、その人らしい生活ができるよう取り組んでいる。病院受診など健康管理にも力を入れている。又、利用者が笑顔で生活できるよう、ボランティアの協力を得て書道、竹細工、音楽、童謡唱歌など生活の活力を見いだす活動を行い、その中で隣接の特養の利用者との交流も行っている。季節のお花見、買い物外食など外出の機会も多く設けている。日帰り旅行や忘年会など、ご家族にも行事参加をいただいている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www. kai gokensaku. jp/
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	令和 2 年 6 月 24 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

入居者の地域での生活の継続を目指して、努力している事業所である。設立以来18年経過しているが、継続して勤務している介護職員5名が働いており、家族的な雰囲気大切にしている。入居者の入院時には、毎日職員がお見舞いに行き、入居者の状況を医療スタッフに尋ねる取り組みが行われている。食事は、ユニット内で調理されている。散歩は天候等の事情が許す限り、敷地内で毎日行われている。買物、外食、四季折々の花を愛でる小旅行等の外出支援は頻繁に行われている。また、個別の要望にもよく対応している。入居者一人一人の気持ちと生活を大切にしている事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長く生活してきた地域で安心して暮らせる様『私達は、高齢者が笑顔で安心できる生活を支援します』を法人全体の理念に掲げ、またグループホーム独自の理念として『住み慣れた町で、その人らしさを大切に、心やすらぐ生活を』掲げている。各会議の折、全職員が理念を共有するよう話し合いの中で確認、意識している。	『住み慣れた町で、その人らしさを大切に、心安らぐ生活を』という地域に根差した事業所独自の理念を掲げている。介護長、主任を中心に現場での介護実践を通して理念の具現化を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などで地域情報を把握している。公民館や子ども会による盆踊りや祭りみこしなどを通して交流がある。春まつりでは地域の住人、ボランティアと多くの交流がある。又、地域の書道・竹細工・童謡唱歌ボランティアの訪問や、特養での利用者と一緒に保育園や踊りの会の訪問を受けている。	町会、自治会に加入している。地域の神社の祭礼時に山車や子供神輿が敷地内を練り歩いている。幼稚園児による遊戯の披露、中学校、高校との交流もなされている。地域の文化祭への積極的な出品、毎年恒例の法人主催の春祭りには、多くの地域住民が参加しており、地域との交流は盛んである。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症などのテーマで家族介護教室を開催し、地域の方々に役立つ情報を提供し、高齢者の生活の支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、入居者の生活状況や外部評価への取り組みの報告を行い、問題点を探りサービスのより良い向上を図っている。また、避難訓練にも参加いただいている。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されている。利用者の現状を報告し、評価への取り組みも話し合わせ、介護の向上に活かしている。新任職員の紹介を会報で取り上げるよう提言がなされ、実行している。またコロナ対策の充実が提言され、備品（マスク、手袋等）の充実にも努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の受託事業である、介護教室を年1回開催し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。又、花見の会などにも参加していたり、入居者の実情を伝えている。運営推進会議にも参加してもらっている。	『介護教室』の開催を自治体から受託している。運営推進会議を始め、事業所主催の行事等にも行政からの参加が見られる。日頃から、行政窓口に出向いて運営に関する相談とアドバイスを受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。身体拘束廃止委員会を設置し、会議、身体拘束廃止の内部研修を行っている。玄関は電子ロックではあり、なるべくかけないようにしているが、帰宅願望の強い入居者が玄関の椅子にかけて過ごす時間が長く、時間帯によっては難しい事がある。個人の状態に応じて、人感センサーを利用者の家族の了解を得て、設置している。	母体法人と協力して身体拘束委員会を立ち上げて定期的に開催している。その折、議題とされた内容を全職員に伝達を行っている。また、内部、外部の研修と伝達研修も行われている。研修記録も残されている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法等について、勉強会を開催し、人権の尊重を常に考えている。外部研修も受け、職員間で虐待防止に努めている。また、職員全員に自己チェックリストと面談を行い、啓発に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関窓口にも制度に関するパンフレットを置いている。利用契約時に説明を行っている。職員間も内部研修を通じて勉強会を行い理解に努めている。	権利擁護に関する制度の説明を、契約時に行っている。外部、内部の研修も受講し、伝達研修も行われている。テキスト、パンフレット、研修記録、報告書もそろえられている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し、入居者・家族に不安や疑問が残らないように努めている。わからないことがあれば、いつでも声を掛けていただくよう案内している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時に必ず意見等を聴き、運営に反映している。意見箱を設置している。相談窓口の担当者、外部機関の苦情相談窓口を玄関に掲示している。	入居者の多くは入居年数が長く、職員も事業所設立以来(18年勤続)のベテラン職員5名が現在も奉職しており、利用者、家族との関係は、家族以上の信頼関係が培われている。食べ物、化粧品をはじめとして各種の要望には誠実に応えている。神社参拝、外出、歩行訓練等多様な利用者の要望を運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の他、必要に応じて個人面談を行い、職員の意見を聞いている。行事の内容や利用者間の人間関係など職員の気付きを運営に反映している。	介護長による職員一人一人との面談が定期的に行われており、公私両面における職員の抱える問題の解決に努めている。また、職員の得意分野を把握しており、イベントの企画から調理器具の選定まで、職員の意見を良く聞いており、職員の意見を介護実践に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期の報告と変動時の報告を受けている。毎年健康診断も行っている。心身の体調に配慮し、勤務内容の変更等、メンタル面のサポートをしている。個人の能力が発揮できるよう、考慮している。ストレスチェックも行い、サポートしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集時はハローワーク等に行っており、採用にあたっては、性別や年齢を考慮していない。 能力が発揮できるよう考慮している。</p>	<p>職員の年齢構成は30歳前半～60歳前半で男性3名と女性15名の構成である。定年はあるが、本人の希望により、更新が可能である。職員の急用によるローテーションの変更にも対応している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人全体により、職員倫理、プライバシー保護・個人情報保護などについて内部研修を行っている。</p>	<p>内部研修は定期的になされており、外部研修に於いても、行政の担当者や人権擁護委員等の有識者を招聘して、併設施設との合同で行う事を検討している。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間内部・外部研修計画を立て、取り組んでいる。外部研修に参加した職員は、職員会議等で他の職員へ研修報告し、共有できるようにしている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ボランティア連絡協議会の主催で、年に一度町内のグループホーム交流会があり、入居者、職員共に交流している。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込み後、入居に至る前に面接し、本人の気持ちを受け止め、本人の声に耳を傾け、信頼関係作りに努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に当たり事前に面接し、現在の家族状況、本人の状況を十分に聴き、本人と家族の思いや希望、要望を理解するよう努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が最良であるかを見極め、多方向から検討している。ケアマネジャーとも相談している。入居1ヶ月後にプランの再検討を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人にできることを職員を交えたグループの中で実践している。料理の盛り付けや食器洗い、洗濯物干しとたたみ、花の水やりなどを一緒にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、本人の生活の様子をお話して、職員に何でも話しやすい雰囲気作りをしている。グループホームのお出かけ行事や忘年会などに家族の参加を頂き、コミュニケーションを図っている。家族との関わりも深まり、気持ちが伝わるようになった。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく今まで生活してきた友人の方などへの関わりが途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。行きつけの美容院や理容室、以前行っていたスーパーに買い物に行っている。彼岸お盆に墓参りをしている。また、外出時に、崇敬している神社に立ち寄りお参りをしている。	入居者の生活歴等はファイルで管理されており、ベテラン職員から新任職員への伝達もなされてる。職員全員で情報共有されており、一貫して馴染みの人や場所との関係維持の支援がなされている。買い物時に回り道をしてなじみの店で食事や会話を楽しんでいる。また、ゆかりの神社にも希望により参拝した事例があげられる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を踏まえ、席なども職員が間に入り配慮している。入居者同士で声をかけ合い、食事の用意なども出来るよう、職員がさりげなく行っている。又、ソファの配置で入居者同士が集いやすい環境を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の特養に移られた方や、入院後退居となられた方へ時々会いに行くことで関係を保っている。亡くなられて初盆を迎える家族に、園での盆供養の案内をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者の声に耳を傾け、本人の希望する生活を実現できるよう心掛けている。家族の面会時に情報収集をしたり、思いや意向の把握に努めている。帰宅願望のある場合は自宅まで送迎を行うなどしている。	入居者と職員の異動が少ない為、仕草や、顔色等から入居者の意向はほぼつかめる関係性を有している。食事やおやつの希望に対応している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴については家族等からも十分に情報を取り入れている。以前の生活環境と著しく変わる事がないように、家族との関係を密に取りながら、日々の暮らしを支えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別の支援経過を記録し、日々の様子や発言等から入居者の現況を職員間で情報共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族へ現在のケアについての説明しながら、気付きや意見を出し合い介護計画を作成している。本人や家族の意向をできる限り反映できるよう、家族にカンファレンスに参加していただき、ケアの実践を確認しながら介護計画を作成している。月1回のケア会議で、職員全員が意見を出し合いケアの検討を行っている。	本人・家族や介護職員の意見や要望を取り入れ、場合によっては医師からのアドバイスも取り入れ、計画作成担当者の立てた原案をもとに、職員会議で話し合いを持っている。毎月モニタリングを行っており、変化がなければ半年に1回計画の見直しを行う。変化があればその都度見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日々の様子や気付きを記入し、職員間の情報の共有を行い、その中でケア実践に活かしている。他に職員の引継ぎ帳を作り、情報共有に役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の支援、健康状態の把握をしている。入院時には、主治医と相談をして早期退院に向けての協力を得ている。外出時の送迎の支援も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時には消防署の協力があり、警察へのパトロール強化をお願いしている。季節の行事では、地域のボランティアや商工会等地域住民の協力がある。町内の美術展にも出品している。 地域の行きつけの美容院やスーパーを利用している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を受診している。受診に家族が付き添えない場合は送迎と付き添いも行っている。別の医療機関へのアドバイスや希望も取り入れている。訪問歯科と連携をとっている。	入居前のかかりつけ医を継続し、家族が付き添った場合は近況がわかるように事前に情報を伝えて受診していただいている。また、家族が付き添えない場合は、スタッフが通院の付き添いを行い、状態を家族に報告し、情報を共有している。希望によりそれまでのかかりつけ医から総合病院へ変更された方もいる。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の細かな変化を見逃さないよう、バイタルチェックや食事排泄状況からの気づきを看護職にその都度報告し、指示を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院したときは毎日入院者介護を行い、入院中の洗濯も行っている。早期退院に向け、主治医や家族と話し合いを行っている。 主治医や看護師からの病状報告をこまめに受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の本人家族の意向を伺い、終末期のあり方について説明を行っている。看取りの方針を共有している。かかりつけ医と連携し、本人家族の意向に沿った支援をしている。	重度化や見取りに関する指針は明文化している。重度化や終末期に関することは契約時に説明をしている。また、家族が希望された場合は、敷地内にある同法人の特養への住み替えを検討することができる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修により急変時の対応に備えている。救急蘇生、AEDの使用など実技研修も行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災関係マニュアル、消防計画書を作成して消防署と連携して年2回、日中夜間想定避難訓練、風水害市雨堤訓練を実施している。消火設備の定期点検も年2回業者に依頼している。米飯、レトルト食品、飲料水の非常食や毛布、オムツなど準備している。火災一斉メールシステムにより、緊急時には全職員と団体代表者にメールが送信される。スプリンクラーを設置している。	避難訓練は年に2回、施設独自で行う訓練と、消防署立ち合いで避難経路や水消火器を使つての消火訓練を併せて行っている。非常用の備蓄品については、施設内に3日分(水・非常食・毛布・おむつ等)準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する介護ができるよう、内部研修や職員会議で学ぶ場を作り、周知徹底をしている。プライバシー保護のマニュアルがある。	プライバシーに関する内部研修が行われており、全体で取り組んでいる。職員は個人の人格が侵害されないために、他者に話が聞こえないように居室で話すなど十分配慮している。失禁等があった場合は、居室など移動していただき、他者に気づかれないように素早く対応するように心がけている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で、コミュニケーションをとり入居者の希望や関心を引き出すようにしている。生活の中での表情や仕草を注意深く、読み取り気持ちを受け入れるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内の入居者の楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作り等の支援を行っている。体操やクラブ活動があるが、入居者の希望や体調に合わせている。散歩や買い物等本人が希望する時は業務を工夫して実施できるようにしている。起床、就寝時間も入居者のペースになるべく合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみを個別支援している。本人の希望する理容院、美容院へ必要に応じて支援を行っている。衣類など一緒に買い物に行き、本人の好きなものを選び、喜ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、盛り付け、片付けを職員と一緒に楽しんで行っている。食事もゆっくりと楽しみながら、その方の食べやすい形態に対応している。花見や忘年会では、家族も一緒に食事の準備をしていただいている。1・2階のふれあいイベントでは季節の料理やお菓子、飲物等を提供し喜ばれている。	自由献立の日を設け、入居者の嗜好を取り入れたメニューや器を変えて目先で楽しむなどの工夫がされている。肉嫌いの方には別のものを提供している。また、病院の検査結果をもとに、管理栄養士と相談して個別に対応することもあり細やかな配慮がなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成を行い、摂取量を記録している。必要な場合は栄養ラウンド表に記入し、食事形態や補助食品など管理栄養士と職員の相談のもと、適切に支援している。水分量が確保できるよう、お茶以外の飲物も工夫している。必要な場合は水分チェック表を作成し水分摂取量を把握している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいの声掛けと見守り確認を行っている。義歯の方は洗浄を介助している。必要な方は、歯科受診を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助表を作成し、排泄パターンを把握し、個人の状態に応じた声掛けを行い、安いで清潔を保ち、気持ちの良い排泄ができるよう工夫している。プライバシーを考慮した対応にも心掛けている。	排泄チェック表は、自発的に排泄したか、声掛け誘導によって排泄したかが分かるように記録されている。誘導は他者に気づかれないように行う配慮がなされている。排尿感を把握し、声掛けを行うなど、細やかな対応で、紙パンツから普通のパンツに改善した事例が数例ある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が検討し便秘予防として個別にヨーグルト、ヤクルト、食物繊維を摂取してもらっている。体操や歩行などの運動も取り入れている。十分な水分摂取を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日可能である。日曜日は家族の面会が多く、また通院がないため菓子作りなどが皆さんと一緒に楽しむ時間を設けている。本人の体調や希望を聴き、入浴へ誘っている。気が向かないときは、時間をおいて再度誘う。足浴でリラックスしてもらい時もある。	毎日入浴ができるように準備している。希望があればいつでも入浴はできるし、入浴を嫌がる方には声をかける職員を変えたり、時間や日を変えたりして対応している。また、「菖蒲湯」や「ゆず湯」をして季節を感じられるように工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、1日のリズムを通して安眠できるように対処している。日中は、なるべく活動的に過ごしてもらえよう支援する。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し、薬袋に服薬の時間、名前を書き込んでいる。薬の種類、副作用については、皆が理解できるようファイルしている。 薬の変更時は、症状・観察を記録し、主治医に情報提供する。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人が出来る事（盛り付け、茶碗拭き、テーブル拭き、ゴミ箱作り、洗濯物たたみ、お茶の葉包みなど）を見つけ、行ってもらったり、職員と一緒に外食、ショッピング等に出掛けたりしている。又、書道・竹細工・音楽・童謡唱歌等の活動も楽しみにしている。お菓子作りなど楽しんでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添うように家族に働きかけ、外出の機会を作っている。 花見や地域のイベント、日帰り旅行、ドライブなど外出の機会を企画している。 又、近くのスーパーへ食材の買物に行く等、日常的に外出の機会がある。入居者の希望で個別に買物や外食もしている。	雨の日以外は、毎日散歩を行っている。買い物については、希望があればその都度対応している。ドライブは週1回程度行っており、町外などにもよく出ている。外食については、現在感染症の問題から控えているが、外出の機会は多い。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には、買物時に個人の財布にて使ってもらっている。個々の利用者に応じた金額の額や使途に関する相談を家族等と行い、合意を得て管理を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話やコードレス電話があり、そのたび対応している。 自分でかけられない方には、家族へ働きかけ機会を作っている。 家族や友人への年賀状を勧めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節の花を飾り、毎日清掃して心地よくしている。床の間や掘りごたつのある畳コーナーやソファを置き、家庭的な空間になるよう努めている。空調を管理し、冬場は加湿器も使用している。天候の良い日は外のテーブルでティータイムをしている。玄関前やベランダに花を植え、季節感を味わってもらっている。	食堂の一角には、掘りごたつや床の間があり、生花や植物が飾られており、家庭的な雰囲気が感じられる。廊下や共用部分には、入居者の作品や写真が飾られており、居心地よく過ごせる空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下にソファを置いて、入居者同士と一緒に過ごせるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた馴染みの物品を持ってきて頂き、家族と一緒に落ち着ける部屋作りをしている。 又、クラブ活動での作品や誕生日の記念写真なども飾っている。	居室内には以前から使用していた馴染みある家具などを持ち込み、入居者や家族の意見を取り入れている。また、思い出の写真や絵などを飾り、家族の面会時にはゆっくり過ごせるような空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、手すりの設置も十分あり、床には安全な床材マットを使用している。トイレ、浴室、洗面台には杖立を設置している。又、トイレスペースを広く取り、安全性を確保している。入居者の状態に応じて、手すりや家具の配置を変えて安全な環境作りに努めている。自分の居室が分からなくなる人には個別の目印を設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
			○	② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長く生活をしてきた地域で安心して暮らせる様『私達は、高齢者が笑顔で安心できる生活を支援します』を法人全体の理念に掲げ、またグループホーム独自の理念として『住み慣れた町で、その人らしさを大切に、心やすらぐ生活を』掲げている。各会議の折、全職員が理念を共有するよう話し合いの中で確認、意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などで地域情報を把握している。公民館や子ども会による盆踊りや祭りみこしなどを通して交流がある。春まつりでは地域の住人、ボランティアと多くの交流がある。又、地域の書道・竹細工・童謡唱歌ボランティアの訪問や、特養デイの利用者と一緒に保育園や踊りの会の訪問を受けている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症などのテーマで家族介護教室を開催し、地域の方々に役立つ情報を提供し、高齢者の生活の支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、入居者の生活状況や外部評価への取り組みの報告を行い、問題点を探りサービスのより良い向上を図っている。また、避難訓練にも参加いただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の受託事業である、介護教室を年1回開催し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。又、花見の会などにも参加していただき、入居者の実情を伝えている。運営推進会議にも参加してもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。身体拘束廃止委員会を設置し、会議、身体拘束廃止の内部研修を行っている。玄関は電子ロックではあり、なるべくかけないようにしているが、帰宅願望の強い入居者が玄関の椅子にかけて過ごす時間が長く、時間帯によっては難しい事がある。個人の状態に応じて、人感センサーを利用者の家族の了解を得て、設置している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法等について、勉強会を開催し、人権の尊重を常に考えている。外部研修も受け、職員間で虐待防止に努めている。また、職員全員に自己チェックリストと面談を行い、啓発に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関窓口にも制度に関するパンフレットを置いている。利用契約時に説明を行っている。職員間も内部研修を通じて勉強会を行い理解に努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し、入居者・家族に不安や疑問が残らないように努めている。わからないことがあれば、いつでも声を掛けていただくよう案内している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時に必ず意見等を聴き、運営に反映している。意見箱を設置している。相談窓口の担当者、外部機関の苦情相談窓口を玄関に掲示している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の他、必要に応じて個人面談を行い、職員の意見を聞いている。行事の内容や利用者間の人間関係など職員の気付きを運営に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期の報告と変動時の報告を受けている。毎年健康診断も行っている。心身の体調に配慮し、勤務内容の変更等、メンタル面のサポートをしている。個人の能力が発揮できるよう、考慮している。ストレスチェックも行い、サポートしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集時はハローワーク等に行っており、採用にあたっては、性別や年齢を考慮していない。 能力が発揮できるよう考慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体により、職員倫理、プライバシー保護・個人情報保護などについて内部研修を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間内部・外部研修計画を立て、取り組んでいる。外部研修に参加した職員は、職員会議等で他の職員へ研修報告し、共有できるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティア連絡協議会の主催で、年に一度町内のグループホーム交流会があり、入居者、職員共に交流している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後、入居に至る前に面接し、本人の気持ちを受け止め、本人の声に耳を傾け、信頼関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たり事前に面接し、現在の家族状況、本人の状況を十分に聴き、本人と家族の思いや希望、要望を理解するよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が最良であるかを見極め、多方向から検討している。ケアマネジャーとも相談している。入居1ヶ月後にプランの再検討を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人にできることを職員を交えたグループの中で実践している。料理の盛り付けや食器洗い、洗濯物干しとたたみ、花の水やりなどを一緒にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、本人の生活の様子をお話して、職員に何でも話しやすい雰囲気作りをしている。グループホームのお出かけ行事や忘年会などに家族の参加を頂き、コミュニケーションを図っている。家族との関わりも深まり、気持ちが伝わるようになった。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく今まで生活してきた友人の方などへの関わりが途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。行きつけの美容院や理容室、以前行っていたスーパーに買い物に行っている。彼岸お盆に墓参りをしている。また、外出時に、崇敬している神社に立ち寄りお参りをしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を踏まえ、席なども職員が間に入り配慮している。入居者同士で声をかけ合い、食事の用意なども出来るよう、職員がさりげなく行っている。又、ソファの配置で入居者同士が集いやすい環境を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の特養に移られた方や、入院後退居となられた方へ時々会いに行くことで関係を保っている。亡くなられて初盆を迎える家族に、園での盆供養の案内をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者の声に耳を傾け、本人の希望する生活を実現できるよう心掛けている。家族の面会時に情報収集をしたり、思いや意向の把握に努めている。帰宅願望のある場合は自宅まで送迎を行うなどしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴については家族等からも十分に情報を取り入れている。以前の生活環境と著しく変わる事がないように、家族との関係を密に取りながら、日々の暮らしを支えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別の支援経過を記録し、日々の様子や発言等から入居者の現況を職員間で情報共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族へ現在のケアについての説明しながら、気付きや意見を出し合い介護計画を作成している。本人や家族の意向をできる限り反映できるよう、家族にカンファレンスに参加していただき、ケアの実践を確認しながら介護計画を作成している。月1回のケア会議で、職員全員が意見を出し合いケアの検討を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日々の様子や気付きを記入し、職員間の情報の共有を行い、その中でケア実践に活かしている。他に職員の引継ぎ帳を作り、情報共有に役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の支援、健康状態の把握をしている。入院時には、主治医と相談をして早期退院に向けての協力を得ている。外出時の送迎の支援も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時には消防署の協力があり、警察へのパトロール強化をお願いしている。季節の行事では、地域のボランティアや商工会等地域住民の協力がある。町内の美術展にも出品している。 地域の行きつけの美容院やスーパーを利用している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を受診している。受診に家族が付き添えない場合は送迎と付き添いも行っている。別の医療機関へのアドバイスや希望も取り入れている。訪問歯科と連携をとっている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の細かな変化を見逃さないよう、バイタルチェックや食事排泄状況からの気づきを看護職にその都度報告し、指示を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院したときは毎日入院者介護を行い、入院中の洗濯も行っている。早期退院に向け、主治医や家族と話し合いを行っている。 主治医や看護師からの病状報告をこまめに受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の本人家族の意向を伺い、終末期のあり方について説明を行っている。看取りの方針を共有している。かかりつけ医と連携し、本人家族の意向に沿った支援をしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修により急変時の対応に備えている。救急蘇生、AEDの使用など実技研修も行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災関係マニュアル、消防計画書を作成して消防署と連携して年2回、日中夜間想定避難訓練、風水害市雨堤訓練を実施している。消火設備の定期点検も年2回業者に依頼している。米飯、レトルト食品、飲料水の非常食や毛布、オムツなど準備している。火災一斉メールシステムにより、緊急時には全職員と団体代表者にメールが送信される。スプリンクラーを設置している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する介護ができるよう、内部研修や職員会議で学ぶ場を作り、周知徹底をしている。プライバシー保護のマニュアルがある。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で、コミュニケーションをとり入居者の希望や関心を引き出すようにしている。生活の中での表情や仕草を注意深く、読み取り気持ちを受け入れるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内の入居者の楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作り等の支援を行っている。体操やクラブ活動があるが、入居者の希望や体調に合わせている。散歩や買い物等本人が希望する時は業務を工夫して実施できるようにしている。起床、就寝時間も入居者のペースになるべく合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみを個別支援している。本人の希望する理容院、美容院へ必要に応じて支援を行っている。衣類など一緒に買い物に行き、本人の好きなものを選び、喜ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、盛り付け、片付けを職員と一緒に楽しんで行っている。食事もうつくりと楽しみながら、その方の食べやすい形態に対応している。花見や忘年会では、家族と一緒に食事の準備をしていただいている。1・2階のふれあいイベントでは季節の料理やお菓子、飲物等を提供し喜ばれている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成を行い、摂取量を記録している。必要な場合は栄養ラウンド表に記入し、食事形態や補助食品など管理栄養士と職員の相談のもと、適切に支援している。水分量が確保できるよう、お茶以外の飲物も工夫している。必要な場合は水分チェック表を作成し水分摂取量を把握している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいの声掛けと見守り確認を行っている。義歯の方は洗浄を介助している。必要な方は、歯科受診を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助表を作成し、排泄パターンを把握し、個人の状態に応じた声掛けを行い、安心して清潔を保ち、気持ちの良い排泄ができるよう工夫している。プライバシーを考慮した対応にも心掛けている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が検討し便秘予防として個別にヨーグルト、ヤクルト、食物繊維を摂取してもらっている。体操や歩行などの運動も取り入れている。十分な水分摂取を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日可能である。日曜日は家族の面会が多く、また通院がないため菓子作りなど皆さんと一緒に楽しむ時間を設けているが希望があれば入浴できる。本人の体調や希望を聴き、入浴へ誘っている。気が向かないときは、時間をおいて再度誘う。足浴でリラックスしてもらい時もある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、1日のリズムを通して安眠できるように対処している。日中は、なるべく活動的に過ごしてもらえよう支援する。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し、薬袋に服薬の時間、名前を書き込んでいる。薬の種類、副作用については、皆が理解できるようファイルしている。 薬の変更時は、症状・観察を記録し、主治医に情報提供する。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人が出来る事（盛り付け、茶碗拭き、テーブル拭き、ゴミ箱作り、洗濯物たたみ、お茶の葉包みなど）を見つけ、行ってもらったり、職員と一緒に外食、ショッピング等に出掛けたりしている。又、書道・竹細工・音楽・童謡唱歌等の活動も楽しみにしている。お菓子作りなど楽しんでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添うように家族に働きかけ、外出の機会を作っている。 花見や地域のイベント、日帰り旅行、ドライブなど外出の機会を企画している。 又、近くのスーパーへ食材の買物に行く等、日常的に外出の機会がある。入居者の希望で個別に買物や外食もしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には、買物時に個人の財布にて使ってもらっている。個々の利用者に応じた金銭の額や使途に関する相談を家族等と行い、合意を得て管理を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話やコードレス電話があり、そのたび対応している。 自分でかけられない方には、家族へ働きかけ機会を作っている。 家族や友人への年賀状を勧めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節の花を飾り、毎日清掃して心地よくしている。床の間や掘りごたつのある畳コーナーやソファを置き、家庭的な空間になるよう努めている。空調を管理し、冬場は加湿器も使用している。天候の良い日は外のテーブルでティータイムをしている。玄関前やベランダに花を植え、季節感を味わってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下にソファを置いて、入居者同士と一緒に過ごせるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた馴染みの物品を持ってきて頂き、家族と一緒に落ち着ける部屋作りをしている。 又、クラブ活動での作品や誕生日の記念写真なども飾っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、手すりの設置も十分あり、床には安全な床材マットを使用している。トイレ、浴室、洗面台には杖立を設置している。又、トイレスペースを広く取り、安全性を確保している。入居者の状態に応じて、手すりや家具の配置を変えて安全な環境作りに努めている。自分の居室が分からなくなる人には個別の目印を設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
			○	② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		